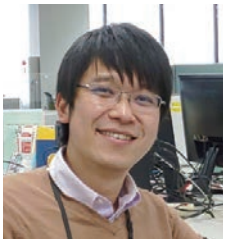
シリーズ！ 活躍する2025年度日本ITU協会賞奨励賞受賞者 その1

王（おう） 寛（ひろし）
NTT株式会社　アクセスサービスシステム研究所 光アクセス基盤プロジェクト
光アクセス基盤高度化グループ 主任研究員
hiroshi.ou@ntt.com
https://group.ntt/jp/
（旧社名：日本電信電話株式会社）



BBF（ブロードバンドフォーラム／ Broadband Forum）で光／無線／コンピューティングのリアルタイム制御技術の提案を主導するとともに、エディタとして仕様作成に大きく貢献。さらに、ITU-TやO-RANで光アクセスシステムでのモバイル収容やRANのオープン化、IOWN（Innovative Optical and Wireless Network）GFでOpen APNのアーキテクチャ文書作成への文章提案等、光と無線の両分野にて幅広い貢献を行った。

BBFにおける自動化インテリジェント管理（AIM）技術の拡張提案

この度は日本ITU協会賞奨励賞という名誉ある賞を頂き、誠にありがとうございます。日本ITU協会の皆様、また、これまでの標準化活動に多大な協力をいただいた関係各位に厚く御礼申し上げます。

AIM（Automated Intelligent Management）は、ネットワークの運用管理を自動化するための技術です。AIMを用いることにより、ネットワーク装置から情報を収集・分析し、設定変更を施すことまでの一連の処理の自動化を実現し、オペレーションコストの削減に寄与します。複数の機器から構成されるネットワークシステムにおいてAIMを実現するためには、国際標準化が必要不可欠であり、BBFにおいて標準化が進められてきました。私は2023年よりBBFに参加し、拡張議論（第2版文書の作成）において制御対象の拡大と、適用ユースケースの拡大の提案に取り組んでまいりました。

提案内容には、第1版文書からタイトルやスコープの変更や、参照アーキテクチャそのものの変更など、影響範囲が大きいものが含まれていました。そのため、提案当初は反対的な参加者もいて挑戦的な取組みでしたが、ロビー活動を重ねて必要性や実現したい世界に対する認知を広めることで、主要メンバを味方につけ、無事に合意形成を図ることができました。標準化活動への参加を通じて実感したことは、相手の理解を酌み取り考えを適切に伝えることの重要さです。標準化活動では、提案の背景や必要性が正しく伝われば、国や企業を問わず、賛同してくれることがしばしばあります。私の提案においても、多くの方の協力を得て、当初提案よりもより良い内容に昇華して合意に至ったことも多数ありました。これまで、ITU-TやO-RANなど複数の標準化団体に参加してきましたが、どの場でも同様の経験をすることができ、標準化活動の楽しいところだと感じています。

BBFへのこれまでの積極的な貢献を評価いただき、第2版作成の文書エディタとして採用いただきました。また、他社からの提案内容に関して事前に意見照会を受けるなど、本改版作業の中心の一人として携わることができ、やりがいを持って取り組むことができています。文書完成までは未解決な課題が多く残っていますが、引き続き他社の協力を得ながら早期完成に貢献してまいりたいと思います。